

4月になって、やっと新学期が始まった。前にも書いたように、本来ならもっと早い時期に始まるのが、今年は昨年のストライキの影響で4月にずれ込んでしまったそうだ。普通、日本ならば新学期は4月と決まっていますが、それ以前にどのようなことがあっても、新学期が大幅にずれ込むことはあり得ない(ただし、2011年の東日本大震災の折には被災地の多くの学校で遅れたことはあったが...)。しかし、スリランカではそれは実に鷹揚としているのか、のんびりとしているのか、全くフレキシブルである。

最初、新学期は3月に始まり、授業は8日から始まるとの連絡を受けたが、その後1週間ずれ、さらには2週間、そしてやっと4月になって開始された。教える者としては予定を組んだり、旅行に出かけたいと思っても、いつ始まるかわからないので、大変困惑した。その上、スリランカでは入学式や卒業式は特別ないようだ。いつの間にか卒業生はいなくなり、代わりに新生が入って来た。この大学は3年制なので、3年生は最後に授業が終わったら、試験を受け、数週間後に試験の結果を受け取り、それで終わりといった具合である。もしかしたら、教師と学生のお別れパーティみたいなものもあるかもしれないが、日本語科に関してはなかったと思う。

大学内で何人かの卒業生と偶然会った時、「今4年生なんですよ」とある学生が言った。「留年」(?)と一瞬思った。しかし、優秀な学生なのにそんなことはないはずと思いながら、詳しく尋ねてみると、そうではなく彼は自主的に残り、勉学を続けるのだそうだ。こういう学生が他にもいた。中には単位がとれず、仕方なく留年している学生もいると聞いたが、こういう面ではスリランカは厳しくし

ているようだ。

4月になると、キャンパス内が急ににぎやかになってきた。それは初々しい感じの新生があちこちに姿を見せ、大学案内を手にして、あちこち動き回っている。彼らは一見してすぐ新生だと分かる。

新生は最初にオリエンテーションがあり、授業の開始がすこし遅れたが、10日過ぎにようやく開始された。授業を開始して、もうひとつ驚いたことがある。それは新生が最初の授業では20人くらいだったのが、1週間後に5、6人増え、さらに次の週には6、7人、そして3週間後にはまた5、6人も増え、最終的には40人を越えてしまったこ



新生(右側女子学生)を上級生(左側男子学生)が学内の活動に参加を呼びかけている



新生が寸劇を披露している歓迎会でのシーン



日本語を学ぶ男子学生(右側の学生は日本への研修滞在の経験あり)

とである。

ばらばらに入ってくるので、進度の面で大変困ってしまった。これはどういうことなのかスリランカ人の先生に尋ねると、入学してくる学生にはランクがあり、優秀な学生は4月最初に入り、順次成績次第で登録し、入学試験の点数はあまり良くないが、Aレベル段階で日本語能力の高い学生は最後に入ってきた、と説明してくれた。この説明でよく分かったが、それにしてもばらばらに来ると、授業が大変やりにくい。

今学期は6時間の授業担当だ。前学期は9時間だったが、少し負担を感じたので減らしてもらうように頼んでみた。その結果3時間少なくなった。他の日本人の先生方も2時間位少なくなり、その分を日本から1名教師が追加され、今学期は日本人の先生が4人となり、スリランカ人の先生と合わせて9人の体制となった。私は、1年生と3年生の「漢字」(各2時間)、そして、1年生と2年生の「日本文化」(各1時間)を担当している。

新入生はすでに2年間日本語は勉強してきているので、初歩的な平仮名、片仮名は一切やる必要はなく、もういきなり難しい漢字を勉強している。しかし、漢字は発音が同じでも文字が違うのが多く、音読み、訓読みの区別、書き順など教えるのがかなり大変である。最近ではもっぱらパソコンばかり利用してい

るので、あまり漢字を直接書くことがないせいか、急に思いだせない漢字が出て来ることがある。

2、3年生の授業が軌道に乗り、そろそろ学内でのサークル活動やいろいろなイベントが始まる頃である。5月になって、12日に新入生歓迎会が開かれた。これは2、3年生が主催して、1年生を歓迎する集まりであるが、教員も招かれて参加した。本来は授業に出るだけで精一杯の新入生に少しでも大学の楽しさや勉強のことなどをアドバイスしようと企画したものである。しかし、新入生歓迎会なので、このような堅く正しいことはさておいて、この日は大いに楽しもうという魂胆であった。上級生はいろいろ考えた末に、1年生に寸劇をグループ毎に披露させ、日ごろ大人しい彼らに大いに羽目を外し、楽しんでもらおうとするものであった。新入生を6つのグループに分け、それぞれ時間を与えて、5～6分の寸劇をさせ、優秀なグループには賞品を与えた。もちろん大いに沸いたことは言うまでもない。私たち教員も大いに楽しんだ。

5月末には仏教の大きな行事であるウェサック祭りが国中で祝われ、これが終わるともう6月である。あっと言う間に時間が経ち、私がスリランカに来て半分以上が過ぎた。

これからも大学での様子や旅行に出かけたことなどレポートしていきたいと思う。 (続く)



ダーナ(お布施)を受けるために僧侶達が食堂へ向かう